

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	アスクさいど保育園
経営主体(法人等)	株式会社 日本保育サービス
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒233-0008 横浜市港南区最戸1-16-3
設立年月日	平成24年4月1日
評価実施期間	平成25年11月 ～26年6月
公表年月	平成26年8月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市評価基準
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
＜施設の概要・特徴＞ 1. 立 地・概 要 アスクさいど保育園は、市営地下鉄・京浜急行の上大岡駅から歩いて10分あまり、住宅や会社が立ち並ぶ一角に位置し、開設して2年目になります。鉄筋コンクリート造り3階建てで園庭や屋上園庭があり、地熱エネルギーを利用した空調システム、太陽光発電システムを採用しています。定員60名のところを、現在0歳児から5歳児まで67名が在籍しています。 2. 多様なプログラム 専門講師の派遣による体操教室、リトミック、英語教室で、様々な表現活動を行っています。食育活動では2歳児から毎月クッキング保育を行い、食農活動では1歳児から園庭の畑やプランターで野菜や花を栽培し、食材として使用することもあります。 【特に優れていると思われる点】 1. 感覚や表現を楽しむ活動の工夫 職員は、子どもの感覚や表現を豊かにするためにいろいろな工夫をしています。 0歳児は、ビニール袋に入れた氷や、水に溶かした片栗粉を触って、触感の違いを楽しむなどの感触遊びを楽しんでいます。園庭で栽培しているブロッコリーを見つけて、2歳児が「これなあに？」と聞いて、1歳児にも教えて一緒に触り、給食で職員が「さっき触ったブロッコリーだよ」と言うと喜んで味わっています。 年齢が上がるにつれ、粘土、ホワイトボード、パズル、大小の空き箱、毛糸、布などを用意し、またCDに合わせての歌や踊り、カスタネット、鈴、タンバリンの演奏など、子どもが自由に表現できるようにしています。 2. 地域子育て支援「にこにこくらぶ」の開催 昨年度開設以来、園でできる地域の子育て支援について職員間で話し合い、今年度7月からは月に一度、未就園児とその保護者対象に地域子育て支援「にこにこくらぶ」を開催しています。 「にこにこくらぶ」では、家庭でも簡単に楽しく行える親子ふれあい体操、こまや鬼の面の製作、手遊びなどを行い、園庭開放、育児相談、栄養相談などを企画、実施し、毎月5組ほどの参加があります。終了後はアンケートを取り、要望などを次回へ反映させています。	

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 戸外活動で自然や地域に触れる機会を

各クラスとも園庭にはほぼ毎日出て砂場や遊具で遊んでいます。園外の散歩は月に1、2回程度となっています。利用者家族アンケート結果では「自然に触れたり地域に関わるなどの園外活動について」は、「不満」「どちらかといえば不満」が合わせて28%ありました。公園を始め散歩できる場所を探し出して、子どもが地域を知り、自然に触れる機会を積極的に設けることが望まれます。

2. 4、5歳児の発達に応じた環境設定への見直しを

開園して2年目でもあり、4、5歳児は合同クラスになっています。4、5歳児の保育室には子どもが自由に取り出せるおもちゃや教材の種類が多くありません。友達や保育士の視線を意識せず過ごせる場所もありません。発達に応じた教材をそろえるとともに、子どもが落ち着いて主体的に遊べるコーナーの設置など見直しを図り、充実されることが期待されます。

また、年間・月間指導計画は年齢ごとに作成していますが、週案は4、5歳児が同じになっています。同じ活動をしていても年齢に合わせた配慮事項は違いますし、5歳児は就学に向けて1月頃から午睡の時間に独自の活動をしています。週案に関しても、年齢に応じた計画の作成や評価・反省をすることが望まれます。

3. 保護者とのさらなるコミュニケーションを

長時間保育で保護者が担任と口頭でコミュニケーションができない場合でも、担任伝言表を使って情報を伝えるようにしていますが、利用者家族アンケート結果では「送迎時のお子さんの様子に関する情報交換について」は、「不満」「どちらかといえば不満」が合わせて19%あります。「担任と会えないとその日の子どもの様子を伝えてもらえない」という保護者意見も複数あります。特別な連絡事項がない場合でも、その日の子どもの様子などを伝える工夫が望まれます。

評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重

- ・運営理念は「安全・安心を第一に」「お子様が一日を楽しく過ごし、思い出に残る保育を」「利用者のニーズに合った保育サービスを」「職員が楽しく働けること」、基本方針は「子どもの『自ら伸びようとする力』『後伸びする力』を育てる保育を」「『五感で感じる保育』の充実を」であり、子どもを尊重したものになっています。
- ・職員は子どもに穏やかに話しかけることに重点を置き、話すときは目線を合わせて話しています。必要以上に大きな声は、子どもにどう受け取られるかを考えるよう、園長はその都度注意しています。
- ・職員は1、2歳児に、はっきりとゆっくりとした口調で話し、子どもたちに分かってもらうようにしています。幼児が納得できないことを職員に説明を求めると、職員は理由を分かりやすく話し、子どもの納得を得ています。
- ・職員は子どもがお漏らしやおねしょをした際は、責めたりすることなくやさしく接し、沐浴所、トイレなどほかの子どもから見られないよう着替えたり、汚れ物を洗ったりしています。
- ・個人情報の守秘義務について職員は入職時に説明を受け署名をしており、実習生にも説明し誓約書をもらっています。特に園外での会話に気をつけ、個人名を話題にすることは禁止されています。
- ・個人情報管理規定は事務所に置いてあり、職員はいつでも確認できます。園長は、ランチミーティングなどで具体事例に関し問いかけ、職員に個人情報の取り扱いについて考えさせるようにしています。
- ・遊びは性別に関係なく、男の子がお母さん役になったり、人形をおぶったり自由にしています。色を性別で分けたり、劇の配役を性別で分けたりはしてい

	ません。
2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供	・保育課程は、非常勤職員の意見をも取り入れながら、年度末にクラス担任を中心に作成し、年度初めの保護者会で説明しています。 ・保育課程に基づき、年齢ごとに年間指導計画、月間指導計画を作成しています。4、5歳児は合同クラスのため、週案とデイリープログラムは同一になっています。年間・月間指導計画は子どもの発達や状況に応じて、評価・反省をした上で見直しをしています。 ・子どもにはこれから始める活動を分かりやすく説明するようにしています。例えば、製作の前に関連する絵本を読んだり、写真を見せるなどして興味を持って取り組めるようにしています。 ・入園説明会の前後に、担当予定の職員が保護者と面接し、生育歴や家庭での呼び方、食べ物の好き嫌いなどの状況を聞き取っています。特に既往症やアレルギーについては綿密に聞き取り、食物アレルギーがある場合は栄養士とも面談しています。 ・個別指導計画は0～2歳児だけでなく、幼児でも配慮を要する子どもについては作成しています。特に離乳食やトイレトレーニングの進め方については、保護者と相談して同意を得た上で作成・見直ししています。 ・興味のある絵本から劇あそびや買い物ごっこをしたいという子どもの発想を受けとめ、集団活動に取り入れています。 ・0歳児から年齢に応じてシール、セロテープ、のり、クレヨン、粘土などを使って自由に表現できるようにしています。 ・全園児で「はとぼっぽ体操」を行ったり、階段のぼり、ジャンプ、マット遊び、トンネル、机のすべり台など、室内でも運動を取り入れています。 ・保育の基本方針は保護者に入園説明会や保護者会で説明し、園の玄関にも掲示しています。年度末の保護者会で、保育方針について理解されているかどうかを聞いています。理解できていない場合は、園長が具体的に説明しています。 ・保護者との情報交換は送迎時に口頭で伝えるほか、保育連絡ノートや担任伝言表を活用しています。個別面談は年に2回行っています。 ・行事予定表は保護者が予定を立てやすいように年度初めに配付し、土曜日、日曜日を行事にあてるなど日程の工夫をしています。
3.サービスマネジメントシステムの確立	・身体測定や健康診断の結果を個人健康記録表に記録しています。発達記録としては、児童票に0～2歳児は毎月、3～5歳児は3か月ごとに記録しています。 ・進級時の申し送りは、児童票を基に重要事項は口頭で伝達しています。 ・特に配慮を要する子どもを受け入れ、個別のケースについて話し合い、記録しています。職員がよこはま港南地域療育センターなどの研修を受け、そのレポートを全職員で共有し学習しています。 ・虐待対応マニュアルを全職員で確認し、毎朝登園時に観察を行うだけでなく、送迎時の保護者の様子も観察しています。港南区こども家庭支援課の保健師とは日常的に相談し、連携をとっています。 ・食物アレルギーにおいては、保護者と栄養士とが面談して、代替食を提供しています。提供前には複数の職員がチェックします。ほかの子どもと机を別にし、トレイは色を変え、トレイにもラップにも子どもの名前と除去食材を明記しています。お代わりは調理室まで取りに行きます。 ・0～2歳児は個別に保育連絡ノートがあり、保護者からも家庭での情報を得、園での情報も詳しく伝達するようにしています。 ・要望や苦情など園単独で解決困難な場合のフローチャートを作っています。近隣からの騒音クレームについて、港南区と連携を取って対応しています。 ・登園時に保護者から子どもの体調の変化を聞き、担任伝言票に記載していま

	す。保育中の変化も同様に保護者に伝え、翌朝に状態を聞いています。 ・感染症が園内で発生したときは、直ちに園長がクラスをまわり職員に情報を伝えて共有し、保護者へは玄関に掲示して知らせています。 ・園独自の災害対応マニュアルがあり、ロッカーのねじの緩み、おもちゃの先の割れ具合、安全チェック表をもとに確認し、子どもの安全を守っています。 ・毎月避難訓練を実施し、年2回、子どもと徒歩で一時避難場所への訓練を実施しています。 ・子どものケガは小さいものでも、保護者に報告し、翌日その後の経過を聞いています。また、ケガがあった場合はアクシデントレポートに記載し、職員は昼会議などで問題点を話し合って再発を予防しています。
4.地域との交流・連携	・今年度から月1回、未就園児とその保護者対象に地域子育て支援「にこにこくらぶ」を7月から実施し、その中で親子体操や手遊び、こまやオニの面作り、園庭開放、育児相談、栄養相談などもしています。 ・南区こども家庭支援課の季刊冊子「保育園にあそびにきませんか」にも「にこにこくらぶ」の開催日や育児相談日を載せて地域に情報を提供しています。 ・夏まつりや運動会に地域の人を招待し、夏祭りには3名の参加がありました。 ・港南区子育て支援事業「こどもフェスティバル春」に毎年参加、協力しています。今年度も4、5歳児が参加し、他園の子どもや地域の人々と交流を図り、竹とんぼを作ったり、未就園児と遊んだりしています。 ・サンタクロースになってもらったり虫の飼育に関するボランティアを受け入れ、ボランティアとの反省会を行い、意見や感想を記録しています。
5.運営上の透明性の確保と継続性	・園の運営理念や方針を記載したパンフレットを区役所に置き、市や設置法人のホームページに、必要な情報を分かりやすく記載して情報提供しています。 ・入職時には運営理念の説明を受け、年度初めや年度末、見学者の対応時期の職員会議では必ず確認しています。特に新人職員には園長が抜き打ちで質問し、曖昧な場合は繰り返し説明しています。 ・就業規則には倫理規定、服務規律を明記し、職員が不正や不適切な行為を行わないよう入職時の研修で周知しています。 ・主任は、新人職員や年度途中で職員の異動があったクラスに入って、指導や助言を行い、昼会議ではクラスリーダーと情報共有し、指導を行っています。 ・福祉サービス第三者評価の自己評価を基に課題について検討し、今年度は地域子育て支援や保育士の人材育成などを重点課題として取り組んでいます。保護者からの情報を全職員が正確に把握するための「時間変更届」を作成しました。受審結果は公表し、事務所に置いて保護者に知らせています。 ・設立時の中・長期計画は園長が作成し、年度末に職員間で園運営について話し合い見直しています。昨年度の園目標は、職員間で話し合ってほぼ達成できたとして今年度、新たな園目標「ひとにやさしく、ものにやさしく、みんななかよし」に改訂し、保護者会で説明しています。
6.職員の資質向上の促進	・今年度は2名の実習生を受け入れ、クラス担任が、実習日誌や日々の活動について助言・指導し、実習終了後は反省会を行って、実習生の意見や感想を記録しています。 ・設置法人が人材育成ビジョンを作成し、階層ごとの保育士に求められる役割や能力が明文化されて、階層別研修を実施しています。 ・職員は年度初めに研修目標を設定する個人別年間研修計画を作成し、半年ごとに目標に対する反省や感想を記入し、園長との面談で達成度の評価を行い、次期の目標設定につないでいます。 ・研修受講後は研修内容を報告したり、研修レポートを作成して全職員に回覧しています。職員が港南区防災研修を受講し、地震が起きたときの様子や被災

地の様子を映像で確認し、園での日頃の訓練の見直しや防災用品、備蓄リストなど子どもの安全を図る取り組みについて見直しを行った事例があります。

- ・非常勤職員も園内で開催する幼児安全法を受講しています。また、非常勤職員で構成する会議に園長が参加して、保育実践について話合っています。
- ・園長会議での事例報告を受けて、園内研修を実施し、幼児用のバギーの安全について確認し、安全カバーを工夫し作成した事例があります。
- ・保育日誌や各指導計画に評価・反省欄を設け、年齢ごとの月間指導計画、週案に振り返りを記載しています。
- ・ランチミーティングやリーダー会議で業務の改善を提案できるようにしています。職員の休憩の取り方について工夫、改善した事例があります。また、年2回の園長との面談で職員からの意見や意向を聞く機会をつくっています。

施設名:アスクさいど保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅰ－１ 保育方針の共通理解と保育計画等の作成 	設置法人の運営理念は「安全・安心を第一に」「お子様が一日を楽しく過ごし、思い出に残る保育を」「利用者のニーズに合った保育サービスを」「職員が楽しく働けること」、基本方針は「子どもの『自ら伸びようとする力』『後伸びする力』を育てる保育を」「『五感で感じる保育』の充実を」であり、今年度の園目標は「ひとにやさしく、ものにやさしく、みんななかよし」となっており、子どもを尊重したものになっています。 ・職員は保育や行事の計画立案時も評価・反省する際も、内容が理念に沿っているか確認しながら行っています。 ・保育課程は、非常勤職員の意見も取り入れながら、年度末にクラス担任を中心に全職員で作成しています。 ・保育課程や今年度の園目標、クラス目標は、年度初めの保護者会で説明しています。毎月のクラスだよりでは、その月のクラスの目標やねらいを掲載しています。 ・年齢ごとに年間指導計画、月間指導計画を作成しています。 ・子どもにはこれから始める活動を分かりやすく説明するようにしています。例えば、製作の前に関連する絵本を読んだり、写真を見せるなどして興味を持って取り組めるようにしています。 ・子どものやってみたいこと、行ってみたいところなどを日常的に聞くようにして、指導計画の見直しに取り入れたり、計画を変更するなど柔軟性を持たせています。 <コメント・提言> ・4、5歳児は合同クラスですが、週案やデイリープログラムにおいてもそれぞれ年齢ごとに配慮事項などを記載することが望まれます。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



・入園説明会の前後に、担当予定の職員が保護者と面接しています。面接時には、生育歴や家庭での呼び方、食べ物の好き嫌いなどの状況を聞き取り、子どもの遊んでいる様子を見ています。特に既往症やアレルギーについては綿密に聞き取り、食物アレルギーがある場合は栄養士とも面接しています。

・面接時に把握した情報は入園前面接シートに記録し、保護者から提出された書類や、健康診断書とともにファイルしています。

・ならし保育は、子どもと保護者の不安を取り除くため、入園前説明会で重要性を説明しています。時間を徐々に長くして1週間ほどを予定しています。

・0～2歳児は個別に保育連絡ノートがあり、保護者から家庭での情報を得、園での情報も詳しく伝達するようにしています。

・子どもの発達や状況に応じて、各クラス担任が指導計画を作成し、評価・反省をした上で見直しをしています。保護者との個人面談や送迎時の会話などからの保護者の意向も反映しています。特にトイレトレーニングに関しては、保護者の意向を保育連絡ノートなどで細かく確認しながら評価・見直しをしています。

・乳児の進級時には一人は担任が持ち上がるようにし、年度初めは職員の配置を多くして、在園児が不安を感じないように配慮しています。

<コメント・提言>

・4、5歳児は合同クラスであっても、年齢ごとに発達に応じた週案を作成し、評価・見直しを行うことが求められます。

I-3 快適な施設環境の確保



・保育園内はマニュアルをもとに、当番が毎日清掃しチェック表で確認し清潔に保っています。汚れた箇所は声をかけ合って臨機応変に清掃しています。おもちゃ、ドアノブ、取っ手などは毎日3回消毒し、ぬいぐるみは毎週、シーツ、カバー、タオルケットも定期的に洗濯し、0、1歳児の敷布団は月1回交換しています。園の門前や裏手の通路なども、草むしりや清掃をしています。

・トイレと保育室には吸臭タイルを使用し、24時間換気装置、空気清浄器を設置し、状況に応じて窓を開けて換気もしています。ゴミ箱は嘔吐下痢用と一般のごみ用共に蓋付きのものを外に設置しています。

・温度・湿度は温湿度計を見ながら調節し、冬場の湿度が40%以下の場合は濡れタオルを干したり、霧吹きなどをして湿度を上げる工夫をしています。

・午睡から目覚めるときには、オルゴールなどで優しい音楽や、クラスによっては元気が出るように好きなテーマ曲を流したり工夫をしています。

・0歳児はサークルを使い、1歳児はロッカーで保育室を半分に区切って、月齢により遊びを分けるなど小集団保育を行えるように工夫しています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ・0～2歳児は、個別指導計画を作成しています。幼児についても、配慮を要する子どもには個別指導計画を作成しています。
- ・個別指導計画は毎月評価・見直しをしています。子どもの状況により、その都度見直しています。特に離乳食やトイレトレーニングの進め方については、保護者と相談して同意を得た上で作成・見直しています。
- ・子どもや家庭の状況は、決められた書式に記録し、個別ファイルに綴じてあります。
- ・毎月の身体測定や定期的な健康診断、歯科健診、蛭虫検査の結果を個人健康記録表に記録しています。発達記録としては、児童票に0～2歳児は毎月、3～5歳児は3か月ごとに記録しています。
- ・進級時の申し送りは、児童票を基に重要事項は口頭で伝達しています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・特に配慮を要する子どもを受け入れ、個別のケースについてクラス会議、リーダー会議、職員会議で話し合い、記録しています。
- ・職員はよこはま港南地域療育センターなどの研修を受け、そのレポートを全職員で共有し学習しています。設置法人の発達支援チームからも助言や情報が得られるようになっています。
- ・虐待対応マニュアルを全職員で確認し、毎朝登園時に観察を行うだけでなく、送迎時の保護者の様子も観察して、疑わしい場合は園長や主任に報告するようにしています。港南区こども家庭支援課の保健師とは日常的に相談し、連携をとっています。
- ・食物アレルギーにおいては、保護者と栄養士とが面談して、代替食を提供しています。担任が調理室で調理員から受け取るときにチェックし、提供前にはほかの職員とチェックします。ほかの子どもと机を別にし、トレイは色を変え、トレイにもラップにも子どもの名前と除去食材を明記しています。お代わりは調理室まで取りに行きます。
- ・食物アレルギー以外のアレルギー疾患についても専門書で調べたり看護師に聞いたりした知識を全職員で共有しています。犬アレルギーの子どもがいるため、公園で犬を放し飼いに行っている飼い主にひもでつながよう願いしたりして気を付けています。
- ・外国籍の子どもや保護者との日常のコミュニケーションは絵カードやジェスチャーを交え、書類は通訳してくれる人に頼んでいます。

評価分類	評価の理由（コメント）
I－6 苦情解決体制 	・ 要望・苦情の受付・対応マニュアルが整備され、受付担当者は主任となっており、保護者にわかるように玄関に掲示しています。 ・ 苦情解決窓口として、「入園のご案内（重要事項説明書）」に、第三者委員や設置法人、港南区こども家庭支援課の電話番号などを記載しています。 ・ 第三者委員には、夏祭りや運動会などの行事に参加してもらって、保護者に顔を知ってもらい苦情を言いやすいようにしています。 ・ 要望や苦情など園単独で解決困難な場合のフローチャートを作っています。近隣からの騒音クレームについて、港南区と連携を取って対応しています。 ・ 過去の要望・苦情はクレーム受理票に記載し、職員会議などで解決策を話し合う際に活用しています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅱ－1 保育内容[遊び] 	・ おもちゃや教材は背の低いカラーボックスなどに置き、子どもの目の高さで自由に取り出し、片付けやすいようにしています。 ・ 興味のある絵本から劇あそびや買い物ごっこををしたいという子どもの発想を受けとめ、画用紙やアルミカップ、紙粘土などを使ってお店屋さんごっこの材料を製作するなど、集団活動に取り入れています。 ・ 食農計画に沿って園庭の畑とプランターで1歳児から栽培活動を行い、クッキング保育や給食の食材に使っています。 ・ 発達に合った素材を用意し、0歳児から年齢に応じてシール、セロテープ、のり、クレヨン、粘土などを使って自由に表現できるようにしています。 ・ 職員は子ども同士のけんかには、年齢に応じて対応し、双方の気持ちを聞いたり代弁や仲立ちをして、必要に応じて子どもと一緒に解決策を考えています。 ・ 天気の良い日は園庭での活動を取り入れ、散歩では川の流れや季節の花を見たり、公園では大きな遊具で体を動かします。夏は園庭を日よけで覆い、帽子の着用と虫刺され薬を用意しています。 ・ 全園児で「はとぼっぽ体操」を行ったり、階段のぼり、ジャンプ、マット遊び、トンネル、机のすべり台など、室内でも運動を取り入れています。 <コメント・提言> ・ 低年齢児の保育室にはコーナーを設けて、季節に合わせて絵本を入れ替えたり、子どもの興味に合わせておもちゃを足したりしています。しかし、4、5歳児の保育室は玩具・教材の種類・量について十分とはいえません。年齢や発達に応じた玩具・教材の種類・量などを用意し、コーナーをさらに充実することが期待されます。 ・ 地域を知り、自然に触れる機会を積極的に設けることが望まれます。

Ⅱ－１ 保育内容[生活]



- ・少食の子どもには完食できるよう少な目の盛り付けにし、残さず食べることを強要していません。授乳は個々のリズムを把握し、離乳食は必要な時期に保護者と栄養士、担任で連携を取って個々に応じて進めています。「食」に関する絵本を読んだり、2歳児からクッキング保育を行い、4、5歳児は当番活動で配膳の手伝いをするなど、子どもの食に対する意欲を大切にしています。
- ・献立は季節や行事に因んだお楽しみランチや、皆で育てた野菜を取り入れるなど飽きないよう工夫をしています。食器は強化磁器を使用し、2歳児までは縁高のワンプレートで盛り付け、0歳児の手づかみから、発達に合わせてスプーン、フォーク、箸を使用しています。
- ・給食会議では、献立の好評、不評をもとに野菜の切り方、味付けなどを検討し、調理に反映しています。
- ・献立表と給食だよりは毎月初めに配付し、旬の食材や行事に因んだ献立を取り入れていることを保護者に伝えています。また、年度初めに給食試食会を設け、保護者に味付けや固さなどを実感してもらっています。
- ・乳幼児突然死症候群について職員は研修を受講し、睡眠中の呼吸チェックを行い、うつ伏せ寝の厳禁を徹底しています。5歳児は1月に入ると就学に向けて午睡はせず、保育室で静かな活動をしています。
- ・「トイレは楽しいところ」という印象を持つよう、家庭と連携の上、一人一人の状況に合わせてトイレトレーニングを進めています。
- ・おもらしをした場合は子どものプライバシーに配慮するなど、子どもの気持ちへの配慮、寄り添いが大事であることを全職員が周知しています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 理[健康管理]



・健康管理マニュアルに基づき、個々の児童健康調査票に既往症、予防接種の有無など健康に関する情報を記載しています。登園時に保護者から子どもの体調の変化を聞き、担任伝言票に記載し職員間で共有しています。保育中の変化も同様に記載して保護者に伝え、翌朝に状態を聞いています。

・歯磨きは1歳児後半から歯ブラシに慣れ、2歳児は職員と一緒に、3歳児からは自分で磨き、仕上げ磨きを職員が行っています。4、5歳児は鏡を使って仕上げ磨きを行い、磨き残しがないように職員が声をかけています。

・個人健康記録票に、身長・体重、健診結果を記録しています。内科・歯科健診結果を所定の用紙に記載し、医師の所見がない場合も、全保護者に配付し確認印をもらっています。

・感染症マニュアルがあり、保護者には登園停止基準や感染症について入園時に説明しています。感染症が園内で発生したときは、直ちに園長がクラスをまわり職員に情報を伝えて共有し、保護者へは玄関に掲示して知らせています。感染症の流行前に保健だよりや園だよりで、園の出入りに手指の消毒に協力してもらうことや、インフルエンザなど任意での予防接種を保護者に勧め、予防に努めています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 理[衛生管理]



・衛生マニュアルがあり、手洗いの方法、施設設備器具の衛生管理、洗剤の種類と保管、アレルギー対応などを記載しています。

・職員は入社時に衛生管理について研修を受講し、園に配属された際にはマニュアルを一人一人確認し、レポートを提出しています。また、園長が抜き打ちでクラスを回り、作業をしている場面で職員に衛生管理に関する内容を確認しています。

・清掃は清掃記録を基に毎日、毎週、毎月ごとに分けて、チェックし、園内を清潔に保っています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理[安全管理]



・園独自の災害対応マニュアルがあり、毎週クラスごとに、ロッカーのねじの緩み、おもちゃの先の割れ具合、加湿器が置かれている場所など、安全チェック表をもとに確認し、子どもの安全を守っています。職員緊急連絡網や関係機関への通報はどの職員でもできるよう、一覧表にして事務室に掲示しています。

・毎月避難訓練を実施し、年2回、子どもと徒歩で一時避難場所への訓練を実施しています。また、設置法人や港南区の災害研修を職員が受講し、災害時に備えています。

・子どものケガは小さいものでも、保護者に報告し、翌日その後の経過を聞いています。また、ケガがあった場合はアクシデントレポートに記載し、職員は昼会議などで問題点を話し合って再発を予防しています。

・職員は不審者侵入防止訓練をDVDで学び、暗号を決めて年4回訓練し、緊急時に備えています。玄関は電子錠で開錠しており、園内の廊下には2箇所、警備会社への通報ボタンを設置しています。

・子どもを送迎する保護者に変更があった場合は、あらかじめ園への連絡がなければ子どもの引渡しはしないことを保護者に伝え理解を得ています。不審者情報は港南区役所からメールで配信され、職員は情報を共有しています。

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅱ－３ 人権の尊重 	・職員は子ども一人一人とじっくり向き合うことを基本として、子どもの人権を意識し、業務マニュアルの読み合わせを行っています。職員は、はっきりとゆっくりした口調で子どもに話しかけ、子どもに理由を分かりやすく説明しています。 ・必要に応じて子どもと職員が一对一で話す場合は、空いている保育室や相談室が利用できます。 ・段ボールの手作りハウスや電車に入って遊ぶコーナーがある保育室もありますが、年長児の保育室は友達や保育士の視線を意識せず過ごせるコーナーなどはありません。 ・職員は子どものおねしょやおもらしなどの際は、ほかの子どもから見られないよう着替えをしています。 ・個人情報の取り扱いや守秘義務について、管理規定があり、職員は入社時に説明を受け誓約書に署名しています。保護者へは、入園時に配付する重要事項説明書で、ホームページへの写真掲載について了解を得ています。また、実習生受け入れ時にも説明し誓約書をもらっています。個人情報が記載された書類は園長の責任のもと施錠保管しています。 ・業務マニュアルを基に、性差による固定観念を職員が持たないようにし、男の子が人形をおぶってお母さんになったり、グループ分けも子どもの自然な選択に任せています。職員に気になる発言があればクラス会議で確かめています。 <コメント・提言> ・4、5歳児の保育室の一隅に衝立などで仕切ったコーナーなど、ほかからの視線を意識せず過ごせる場所をつくることが望まれます。

Ⅱ－４ 保護者との交流・連携



・保育の基本方針は重要事項説明書や園のパンフレットに記載し、保護者に入園説明会や保護者会で説明し、園の玄関にも掲示しています。毎月配付するクラスだよりには月のねらいを記載し、保育方針を伝えています。

・年度末の保護者会で、保育方針について理解されているかどうかを聞いています。理解できていない場合は、園長が具体的に説明しています。

・保護者との情報交換は送迎時に口頭で伝えるほか、保育連絡ノートや担任伝言票を活用しています。個別面談は年に2回、土曜日を含む2週間を設定し、保護者が選択しやすい日程で行っています。

・保護者からの相談はプライバシーに配慮して相談室を使って聞いています。相談内容によって、リーダーや園長、主任から助言を受けられる体制があります。相談は記録し、必要に応じて職員間で検討しています。

・園だより、クラスだよりは毎月発行し、子どもたちの様子を伝えています。設置法人のホームページに子どもの日常保育や行事の様子を掲載しています。保護者はインターネットで保育や行事の写真を購入することができます。

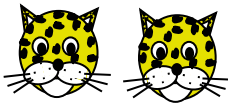
・行事予定表は保護者が予定を立てやすいように年度初めに配付し、土曜日、日曜日を行事にあてるなど日程の工夫をしています。保育参観・参加は1週間、年に5回あり、カリキュラムを掲示して希望の日に参加できるようにしています。

・園から独立した保護者組織はありません。

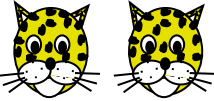
<コメント・提言>

・特別な伝達事項がなくても、その日の一人一人の様子を送迎時に保護者に伝える工夫が望まれます。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供 	・今年度月１回、未就園児とその保護者対象に地域子育て支援「にこにこくらぶ」を７月から実施しています。実施後のアンケートや園見学者のアンケートで、地域の子育て支援ニーズを把握しています。 ・「にこにこくらぶ」では、園庭開放、育児相談、栄養相談なども実施しています。 ・地域の育児支援について同系列の保育園の支援内容を見学して、自園で何ができるか職員間で話し合っています。 <工夫している事項> ・「にこにこくらぶ」では、親子体操や手遊び、こまやオニのお面作りなどを行い、家庭でも親子一緒に遊べるような内容の工夫をしています。 <コメント・提言> ・地域住民の子育て支援ニーズを把握するため、関係機関や他施設との検討会、研究会などへの参加が望まれます。
Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能 	・毎週水曜日に行う育児相談のお知らせは園の門に貼り出し呼びかけています。 ・「にこにこくらぶ」の地域子育て支援日のポスターや夏祭りのお知らせを町内会の掲示板に貼り、港南区こども家庭支援課の季刊冊子「保育園にあそびにきませんか」にも「にこにこくらぶ」の開催日や育児相談日を載せて地域に情報を提供しています。 ・関係機関をリスト化して必要なときに職員が活用できるようにしています。関係機関との連絡は園長、主任、リーダーが担当し、情報は関係機関ごとに整理しています。気になる事案については、区の担当保健師やよこはま港南地域療育センター、設置法人支援担当と相談するなど連携をとっています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ 	・夏まつりや運動会に地域の人を招待し、夏祭りには3名の参加がありました。 ・港南区子育て支援事業「こどもフェスティバル春」で、地域の子どもや保育園児が交流して楽しめるよう、地域の保育園として毎年事業に協力しています。4、5歳児が参加し、他園の子どもや地域の人々と交流を図り、竹とんぼを作ったり、未就園児と遊んだりしています。 ・年長児が学区内の小学校を訪問し、2年生と一緒に教室や給食室など校内を見学しています。また、小学校1年生担当職員が来園し、年長児の基本的な生活習慣などについて情報交換を行っています。 ・今年度は地域支援「にこにこくらぶ」開催時に、園庭開放を2回行い、地域に園に対する理解を促しています。 ・クッキング保育や年長児のお泊り保育の際は、近隣のスーパーに職員と一緒に買い物に行き、途中で出会った親子やお店の人と挨拶を交わしています。
Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供 	・園の運営理念や方針を記載したパンフレットを区役所に置き、利用希望者が自由に持ち帰ることができるようにしています。また、市や設置法人のホームページに、必要な情報を分かりやすく記載して情報提供しています。 ・園の門付近に園見学が出来ることを掲示し、利用希望者にはパンフレットや「入園のご案内」を基に、理念や方針、サービス内容について園長、主任が説明しています。 ・開園時間であれば、利用希望者の都合に合わせて対応していますが、保育の様子が分かる午前中の見学を勧めています。 <コメント・提言> ・市や施設独自の媒体以外の情報提供媒体に対して園の情報を提供していくことが望まれます。
Ⅳ－３ 実習・ボランティアの受け入れ 	・ボランティア・実習生受け入れガイドラインに基づき、園の理念や方針、守秘義務や個人情報の取り扱いなどについて説明しています。 ・ボランティアとの反省会を行い、意見や感想などを記録しています。今後の活動について話し合い、保育に取り入れるようにしています。今年度は、クワガタやカブトムシの飼育に関するボランティアやサンタクロースのボランティアを1名受け入れました。 ・今年度は2名の実習生を受け入れ、職員に受け入れにあたっての方針を説明し、子どもや保護者には口頭や掲示、園だよりで実習期間や学校名、氏名を知らせています。 ・クラス担任が、実習日誌や日々の活動について助言・指導し、実習終了後は反省会を行って、実習生の意見や感想を記録しています。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
V-1 職員の人材育成 	・職員の欠員の補充は園長が設置法人に連絡し、速やかに行っています。1人担任以外のクラスは新人職員と経験のある職員、正規職員と非常勤職員を配置し、日常の保育の質を確保しています。 ・階層ごとの保育士に求められる役割や能力が明文化されています。また、設置法人が人材育成ビジョンを作成し、階層別研修を計画し、実施しています。 ・職員は年度初めに研修目標を設定する個人別年間研修計画を作成し、半年ごとに目標に対する反省や感想を記入し、園長との面談で達成度の評価を行い、次期の目標設定につないでいます。 ・研修受講後は職員会議やランチミーティングで研修内容を報告したり、研修レポートを作成して全職員に回覧しています。 ・職員が港南区防災研修を受講し、地震が起きた際の様子や被災地の様子を映像で確認し、園での日頃の訓練の見直しや防災用品、備蓄リストなど子どもの安全を図る取り組みについて見直しを行った事例があります。 ・非常勤職員も園内で開催する幼児安全法を受講しています。また、非常勤職員で構成する会議に園長が参加して、理念や方針に向けた保育実践について話し合っています。

評価分類	評価の理由（コメント）
V－2 職員の技術の向上 	・年2回階層別の査定項目について自己査定を行っています。また、毎年、第三者評価の評価基準に沿って、園の自己評価を行っています。 ・園長会議での事例報告を受けて、園内研修を実施し、幼児用のバギーの安全について確認し、安全カバーを工夫し作成した事例があります。 ・設置法人の発達支援担当や食農担当、よこはま港南地域療育センターの職員から、配慮が必要な子どもへの対応についての助言・指導体制があります。 ・保育日誌や各指導計画に評価・反省欄を設け、年齢ごとの月間指導計画、週案に振り返りを記載しています。園長は評価・反省欄の記録の仕方について、子どもの姿だけではなく、ねらいに対しての実践の振り返りを記録することを、その都度、職員に助言し指導しています。 ・第三者評価受審の際に行う個々の自己評価結果を職員会議で話し合い、保育所の自己評価としてまとめ、課題について話し合っています。昨年度、課題となった指導計画の評価・反省欄の記載の仕方については、改善に向けて園長が確認し、指導しています。
V－3 職員のモチベーションの維持 	・「保育士に期待される役割・能力」を明文化しています。また、職員の階層別の査定票に査定項目を定めて評価基準を示しています。 ・クラス運営に関してはクラスリーダーに任せ、各行事は担当者が中心となって企画し、園長に報告・連絡・相談を心掛けるようにしています。 ・ランチミーティングで新人保育士の意見を聞いたり、リーダー会議で業務の改善を提案できるようにしています。職員の意見を受け、職員の休憩の取り方について工夫、改善した事例があります。また、年2回の園長面談で職員からの意見や意向を聞く機会があります。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
VI－1 経営における社会的責任 	・就業規則には倫理規定、服務規律を明記し、職員が不正・不適切な行為を行わないよう入社時の代表研修で周知しています。設置法人にコンプライアンス委員会があり、不正があった場合の通報先などを明記して、職員休憩室と事務所に掲示し周知しています。 ・他施設での問題事案は設置法人内の園長会で報告を受け、園に持ち帰ってランチミーティングで職員に周知しています。設置法人からFAXで情報送信されることもあり、子どもへの不適切な関わりについての報告から、職員間で話し合った事例があります。 ・園目標「ひとにやさしく、ものにやさしく、みんななかよし」を掲げ、物を大切にしよう取り組んでいます。子どもたちは空き容器、トイレットペーパーの芯、牛乳パックなどを利用した製作活動を行い、リサイクルに取り組んでいます。また、地中熱エネルギーを利用した空調システムを導入し、電力23%削減やエコキャップの収集を行ってリサイクル・省エネ促進に努めています。
VI－2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等 	・職員会議や昼会議で理念・方針・園目標を園長が全職員に説明し、理解を促しています。また、行事計画立案時や、日常の保育の中で理念・方針に沿った計画・活動であるかを職員間で話し合い確認しています。 ・絵本を無造作に踏んでしまったり、破いてしまうなど、物を大切にしない子どもの現状や、横浜市が目標としているゴミ削減の環境への配慮を取り入れ、今年度、新たな園目標を策定するにあたり、保護者会で説明し、保護者と意見交換を行っています。 ・主任は毎朝クラスを廻って個々の職員の業務の状況を確認し、意見や要望を聞いて毎月シフト表を作成しています。 ・新人職員や年度途中で職員の異動があったクラスに入って、保育に対する指導や助言を行い、ランチミーティングではクラスリーダーとコミュニケーションを図り、園長と相談しながら職員への指導を行っています。
VI－3 効率的な運営 	・設置法人で事業運営に影響のある情報を収集・分析し、園長会で各園に伝達されたものをランチミーティングで職員間で共有し、検討課題としています。 ・福祉サービス第三者評価の自己評価を基に課題について検討し、今年度は地域子育て支援や保育士の人材育成などを重点課題として取り組んでいます。保護者からの情報を全職員が正確に把握するための「時間変更届」を作成し、日々保護者からの申し出が全職員で共有できるよう取り組んでいます。 ・設立時の中・長期計画は園長が作成し、それを基に年度末に職員間で園運営の方向性について話し合い、見直しを行っています。昨年度の園目標「えがおいっぱい、たのしくあそぼう」は、職員間で話し合い、ほぼ達成できたとして今年度、新たな園目標「ひとにやさしく、ものにやさしく、みんななかよし」に改訂し、5年長期と中期計画を作成しています。 ・設置法人は将来を見据えた組織運営に備え、マニュアルの改訂、研修計画の見直しなど新たなしくみを常に検討しています。

利用者家族アンケート

施設名:アスクさいど保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数66名、全保護者56家族を対象とし、回答は42家族からあり、回収率は75%でした。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で 保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態で評価機関が回収しました。

◇ 総合満足度

施設に対する総合評価は、肯定的な回答が95%(満足69%、どちらかといえば満足26%)でした。

◇ 比較的満足度の高い項目

1)職員の対応について、「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるか」の回答(満足・どちらかと言えば満足の合計)は100%となっています。

2)園と保護者との連携・交流についての設問で、「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会について」の回答(満足・どちらかと言えば満足の合計)は100%となっています。

3)日常の保育内容 生活についての設問で、「お子さんの体調への気配りについて」(満足・どちらかと言えば満足の合計)は97%、「給食の献立内容について」は、同95%と高い評価でした。

4)保育園の快適さや安全対策についての設問で、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」の回答(満足・どちらかと言えば満足の合計)は96%、「お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気について」の回答は同93%あり、園の快適さや安全対策に満足していることがうかがわれました。

◇ 比較的満足度の低い項目

1)日常の保育内容の遊びについての設問で、「自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動について」の回答(どちらかといえば不満・不満の合計)は28%あり、自然に関わるなど園外活動を望んでいることがうかがわれます。

2)園と保護者との連携・交流の設問で、「送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換について」の回答(どちらかといえば不満・不満の合計)は19%となっており、何らかの対策が望まれます。

3)入園した時の状況で、「見学の受け入れについて」の項目の肯定的な回答は74%と低く、新設2年目で見学ができなかったことがうかがわれます。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	10%	62%	16%	10%	2%	0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	63%	33%	4%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	57%	17%	0%	0%	21%	5%
	その他:					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	57%	29%	7%	0%	0%	7%
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	38%	52%	7%	0%	0%	3%
	その他:					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	57%	33%	7%	0%	0%	3%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	50%	36%	10%	0%	2%	2%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	48%	45%	0%	2%	0%	5%
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	48%	43%	2%	0%	7%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	33%	38%	10%	2%	15%	2%
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	67%	29%	2%	0%	2%	0%
その他:						
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	40%	32%	16%	6%	6%	0%
その他:						
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	60%	33%	7%	0%	0%	0%
その他:						
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	43%	22%	21%	7%	7%	0%
その他:						
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	69%	29%	2%	0%	0%	0%
その他:						
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	60%	35%	5%	0%	0%	0%
その他:						

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	71%	24%	2%	0%	3%	0%
その他:						
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	69%	21%	2%	0%	8%	0%
その他:						
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	50%	40%	2%	0%	8%	0%
その他:						
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	71%	17%	5%	0%	5%	2%
その他:						
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	62%	21%	2%	2%	11%	2%
その他:						
お子さんの体調への気配りについては	71%	26%	2%	0%	0%	0%
その他:						
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	60%	29%	7%	2%	2%	0%
その他:						

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	60%	31%	7%	0%	2%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	81%	12%	2%	2%	3%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	60%	36%	2%	2%	0%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	52%	41%	5%	2%	0%	0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	57%	43%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	66%	24%	10%	0%	0%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	55%	36%	7%	2%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	48%	31%	17%	2%	2%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	60%	29%	7%	2%	2%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	67%	24%	2%	2%	5%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	81%	17%	0%	0%	2%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	62%	33%	5%	0%	0%	0%
その他:						
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	71%	29%	0%	0%	0%	0%
その他:						
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	55%	30%	0%	0%	10%	5%
その他:						
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	48%	43%	2%	2%	5%	0%
その他:						
意見や要望への対応については	48%	38%	5%	2%	7%	0%
その他:						

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答
総合満足度は	69%	26%	5%	0%	0%

観察方式による利用者本人調査

(アスクさいど保育園)

◇0 歳児

(遊び)

室内ではままごと道具を床に広げ、一人の子どもがフライパンにおもちゃの野菜の半分をのせ、前後にゆすって料理をしています。もう一人の子どもは段ボールの中で上を見つめたり、サークル内では CD の音楽を聞きながら、絵本を読んだり、柔らかいボールを「ぼーんぼーん」して職員と一緒に遊んだりしています。

園庭では子どもがよちよち歩きで砂場に向かい、自分の好きな遊具で遊んでいます。また、子どもが砂をすくったりこぼしたりするのを職員にみせて話しかけると、職員は子どもを見て話を聞き、言葉をかえしています。意思を言葉で表現できない子どもには、職員が同じ目の高さで「どうしたの」と笑顔で聞いています。

(午睡)

保育室に子どもの布団を並べて敷き、一人はぐっすり寝ています。もう一人は仰向けになったりゴロゴロしています。ほかの子どもはサークルの中で職員と遊んだり、職員に抱っこしてもらい眠りについています。

午睡から覚めた一人の子どもが、よちよちと歩いて床に座っている職員に、「読んで」という様子で絵本を持っていくと、職員は絵本を手にとり一緒に見えています。

(食事)

子どもたちはテーブル付きの椅子に座っています。職員は一人一人の食器に盛られたおかずやご飯を配膳しています。「いただきます」をした後、自分でスプーンを持って口に運ぶ子どもや、職員にスプーンで口に運んでもらっている子どももいます。職員は子どものそばに座って様子を見ながら、できないところを支援しています。子どもは自分でコップを持ち、お茶を飲んでいます。

◇1 歳児

(遊び)

園庭では、子どもたちがすべり台に並び順番を待っています。職員がすべり台の上と下で子どもたちの安全を見守り、子どもたちは順番に大きく声を上げてすべり台を滑っています。

子どもたちは、2 歳児の子どもの真似をしながら後からついて走っています。子どもが職員に「ヨーイ・ドン、ピーして」と言うと、職員は「向こうからよ。ヨーイ・ドン」と笛でピーとならし、最初は 1 人だった子どもが次々に増え、そばで様子を見ていた子

どもも加わり、みんなでかけっこを楽しんでいます。

一人の子どもが「よごれたー」と職員にズボンを見せると、職員は「よごれたらポンポンでしょ」と声をかけ、子どもは自分で膝辺りをぽんぽんして砂を落としています。

◇2 歳児

(遊び)

トイレをすませた子どもは、コートを着て靴下を履き、園庭に行く準備をしています。玄関へ移動し、靴を履きながら「今はたんぽぽ組さんとちゅうりっぷ組さんが砂場で遊んでいるのでお店屋さんごっこはその後にしようね」と職員から約束を聞き、「はい」と返事をしています。

園庭で子どもが、プランターをのぞき、「これなーに」と職員に聞くと、職員が「ブロッコリーだよ。チューリップ組さんに教えてね」と言っています。子どもは、チューリップ組の子どもに「ブロッコリーだよ」と言うと、チューリップ組の子どもは目を丸くして「うんうん」とうなずいています。

職員が靴で地面に線を描いて線路を作り「でんしゃ」と言いながら線の上を走ると、子どもたちは砂場の容器で巾の広い道路を描き、その上を「じどうしゃ」といって走り回ります。子どもたちは、職員とおにごっこをしたり、空を飛ぶヘリコプターを指差したり、滑り台で遊んだり、地面に丸を書いてケンケンパをしたりと自由に遊んでいます。

0、1 歳児が保育室に入った後、砂場の横にある小さなお家を使って、お店屋さんごっこが始まりました。子どもたちはピザ、ハンバーガーなどを作る人、売る人、パーティーを開いて食べる人になり遊んでいます。

(食事)

テーブルに向って子どもが座り、少し離れた机に、食物アレルギーを持つ子どもが職員と一緒に食事を待っています。ほかの職員が配膳を始め、「静かに待ちましょうね」と声かけすると子どもたちは一斉にシーンとなります。

配膳が終わって職員がピアノを弾くと、子どもたちは元気な声で給食の歌をうたいます。

給食にブロッコリーが出ると、「さっきプランターにあったね。食べるとかっこいいよ」と職員が声かけすると、子ども同士で「かっこいい」とほめあっています。「たべたくない」と言っておかずやスプーンを投げ出す子どもに、職員はそばに行って「どうしたの」と声をかけ、話を聞いています。しばらくして子どもは納得し、一緒に食べ始めました。

食事が終わった子どもから椅子に座って歯を磨き、磨き終わると職員に仕上げ磨きを頼んでいます。職員は「まだちょっと残っているね」と話しかけながら仕上げ磨きをしています。

(排泄・着替え)

活動の前後に職員が「トイレはどう？」と子どもたちに声をかけています。昼食後の歯磨きが終わった子どもから、トイレに行き、着替えを始め、脱いだ衣類を袋にしまっています。着替えに手間取っている子どもには、「できるところまでやってごらん」と職員が声かけしています。

◇3～5 歳児

(散歩)

3 歳児と 4、5 歳児が一人ずつ手をつなぎ、大岡公園まで散歩に行きます。信号や横断歩道では、手を挙げ、コンクリートミキサー車が通ると興味深そうに眺め、ガソリンスタンドでは、お店の人に大きな声で「こんにちは」と挨拶しています。

途中の大岡川付近で、子どもたちは「大きい鯉がいるんだよ」とのぞきこんでいます。職員が通りがかりの家の庭を見て「これはキンカンだね」と子どもたちに声かけし、子どもたちは玄関先の人と大きな声で「こんにちは」と言いながら手でハイタッチしています。

大岡公園には近隣園の子どもたちもたくさん来ていたので、4、5 歳児の帽子を裏返し、全員がピンクの帽子にして、子どもたち同士すぐわかるようにしました。

点呼をした後、職員が足で線を引き「今日はこの線からこっちで遊びます」と言うと、子どもたちはすべり台やすべり棒のついた遊具、鉄棒などに飛びつきました。近隣園の子どもたちとも一緒に並んですべり台をすべっています。

走り回ってころんだ子どもも、すぐ泣き止んでいます。「横はいりされた」と職員に言いに来た子どもには、職員が子どもの話を聞いてなぐさめています。子どもは職員に聞いてもらい、表情も明るくなりました。

子どもたちは園に帰る前に、職員からコップをもらい、お茶を飲みます。あちこちで子どもたちが「お代わりください」というと、職員は「もうからっぽ」と水筒をふっています。「トイレに行きたい人」と子どもたちに聞き、職員がついてトイレに行きました。

子どもたちは散歩から帰って手を洗うと、絵本コーナーから好きな絵本を取出し、座って読んでいます。

◇3 歳児

(給食)

手洗い場に子どもたちが並んでいます。子どもたちは手の洗い方が描いてある絵を見ながら「手はこの順番に洗うんだよ」「指の間もきれいにね」と言いながら手を洗い、席に着いて配膳を待っています。

職員が「お箸とフォークどっちにする？」と聞くと、「両方にする」「お箸で頑張る」

とそれぞれ答えて、箸やフォークをもらっています。

「お汁は右だよ」「ご飯は左」と職員が声をかけながら一人一人に配膳し、「いただきます」をして食べ始めます。「今日は長い針が4の所まで箸で頑張ってみよう」と職員が言うと、子どもたちは「はい」「たくさん食べて大きくなるの」「ねえ、初めてキュウリ食べられたよ」「ピカピカにたべるよ」と会話しながら満足そうに食べています。

職員はその都度「食べられて偉いね」「すごいね」「おへそは前だよ」「お代わりの人は言ってくださいーい」などと笑顔で一人一人の食べている様子を見て、声かけしていました。

(午睡後)

午睡後、帰りの会まで子どもたちは、段ボールで作ったパーテーションでおうちを作り、買い物袋を提げて「行ってきまーす」とおままごとをしたり、ブロックで車や飛行機などを作って遊んでいます。

◇4、5 歳児

(給食)

当番の子どもはエプロンをして、職員に三角巾をつけてもらい、台ふきんで机を拭いています。手を洗った子どもたちは、椅子にすわっておしゃべりをしています。当番の子どもはお茶の入ったコップを持って一人一人に配り、職員は「手はお膝だよ」と声をかけながら、お汁や主菜をそれぞれのトレイにおき、食事の準備をしています。

一人の子どもが不満そうに、椅子を反対に向けて座っているので、職員が「そんな座り方をしたら、お話ができないよ」と声かけし、その子どもが納得できるまで、子どもと同じ目の高さで話を聞いています。

配膳が終わると子どもたちは給食の歌をうたい、一緒に「いただきます」と挨拶して食べ始めます。職員が「今日はお肉のお代わりがありますよ。長い針が10の所に来るまでに食べ終わるようにしてくださいね」と伝え、子どもたちは楽しそうに会話をしながら食べています。

「お肉が嫌い」と言っていた子どもは、ほかの子どもが食べているのを見て「少しずつなら食べられるよ」と言って野菜と一緒に食べています。職員から「すごいね」とほめられ満足そうに笑顔になっていました。

(午睡後)

午睡から覚めて、ままごとやお絵かきなど好きなことをして遊び、職員から「お片付けしようね」と言われるとみんなで片付けはじめます。さくら組の保育室に行き、職員がオルガンをひいて「1年生になったら」の歌を歌います。大きな口を開けて元気いっぱい歌っています。

平成25年度 横浜市第三者評価 事業者コメント

(アスクさいど保育園)

【受審の動機】

アスクさいど保育園は、開園3年目を迎えました。今までの園運営を振り返り、今後の課題を見出すために有効な手段だと考え、毎年第三者評価を受審させて頂いております。開園初年度より、同じ評価機関に評価を依頼し一貫した調査を受けることで比較がしやすく、運営方針等も十分にご理解いただいた上で調査を実施していただけると感じています。今年度も、保護者のニーズを把握する絶好の機会、また、同時に職員が自己・自園を見直す良いきっかけになると考え、受審いたしました。

【受審した結果】

評価を受け、普段当たり前のように入っていたことを改めて認識し、自分たちの保育を見つめ直す良いきっかけとなりました。開園2年目を過ぎ、まだまだ園の基盤作りが必要な年でしたので基盤作りを行うと共に、昨年度の受審結果を基に職員と振り返りながら保育ができました。昨年度、改善事項にあげられていた、1,2歳児の個別指導計画においては、職員に指導し直し職員がそれを理解し、子ども一人ひとりをみつめ発達状況に応じた指導案の作成、実践、振り返りを行うことが出来ました。また感覚遊びの工夫は、職員が子ども達にこんなことをしてあげたいという思いから考えた保育でしたので、優れていると評価して下さり、職員の自信につながり、保育の楽しさも感じられているようです。

今後の課題としては、戸外活動では、散歩、公園に出掛け、自然に触れる活動を積極的に取り入れられる指導案を職員で考え取り組んでいきます。

保護者の方が見えない時間のお子様の様子を伝えられるよう努力し、これからも保護者の方と信頼関係を築いていきます。

今後も基本理念を守り、安心してお子様を預けて頂けるように努力して参ります。

アスクさいど保育園
原田 君枝